平成29年9月定例県議会

「一般質問」で県政の現課題を質問しました。

桜川治水対策

台風21号接近時の新開橋付近。
かなり水位が上昇していました。

問：県内に上陸した台風18号により、多度津町では床上105戸床下275戸の重大な洪水被害が発生した。多度津町では度々同じ場所で被害が発生していることから、抜本的な対策が必要である。

答：（知事）桜川については、昭和59年より河川改修に着手、これまで河口部から支川小桜川及び東桜川との合流点付近まで整備を行い、現在支川合流点上流部の町道橋の架け替え工事を実施しています。

桜川は、過去浸水被害が発生し、平成24年度に護岸嵩上げ、26年に逆流防止門にゲートポンプを設置。しかしながら今般の台風で記録を上回る異常潮位と大雨で多大な浸水被害が発生しました。

県としましては、再度災害を防止する観点から、護岸の再嵩上げのために、高さ及び長さの検討すべく、現地調査に着手。加えて、抜本的対策として河口の排水ポンプ能力の検討、多方面からの治水対策、情報提供のソフト対策について効果的経済的な対策となるよう町と協力して総合的に検討します。

ビッグデータ活用による交通安全対策

問：本県においては平成27年度28年度でビッグデータを活用した交通安全事業に取り組んできているが、これまでの総括を踏まえ今後の取り組みを伺う。

答：（知事）県政の重要課題である交通事故抑止対策で、ビッグデータを活用しています。

県内の急ブレーキ多発地点、すなわち潜在的危険地点を抽出した上で4箇所に事故注意喚起の路面表示など対策工事を実施。さらに、分析を進め、未事故地点でも「ヒヤリ・ハット」の発生原因が導き出され、早期回避行動対策の立案にも活用できると考えています。

「交通事故多発地点総合診断」の中に取り入れ、幅広く活用し、さらに他のビッグデータも事故抑止のため活用できるものはないか調査します。

交通事故死亡事故多発の中で、対策工事を実施した箇所では、効果が出ていると考えられ今後も研究を続けていきたい。

近況

99歳になられる中曽根先生に夏のご挨拶に伺いました。いつもながらのパワーを頂きました。

晴天の日、剣山へ家内と登山。
素晴らしい景色でリフレッシュ。